

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 26 日現在

機関番号：16102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K02534

研究課題名(和文) 小学校国語教科書における説明的文章教材の史的研究

研究課題名(英文) A Historical Study of Expository Texts in Japanese Textbooks used at Elementary School

研究代表者

幾田 伸司 (IKUTA, SHINJI)

鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・教授

研究者番号：00320010

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：戦後小学校国語教科書に採録された説明的文章教材の採録史を総括的に記述し、教育内容の変容過程を明らかにすることを旨とした。昭和46年度以降の題材については、理科的素材である「動植物」特に「昆虫」が最も多く、次いで児童の「くらし」の中で触れる社会文化的事象が採録される。学年ごとの題材傾向は、学習者の社会的関心の広がりに対応している。本文叙述と教育内容の変化については、構成や表現の曖昧さを除き、問題解決型文章の典型例となるような改稿がなされた。それにより、段落要約、文章の解釈、構成把握、考えの交流など、各時期の教育内容に適合する学習活動が設定されるようになり、様々な学習活動に対応できるようになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、戦後の小学校国語教科書の説明的文章を通して児童がどのような題材の教材と接してきたか、時期ごとの傾向を検討することで、学校教育が学習者に提示してきた話題・題材の一端を明らかにした。国語教科書が学習者に示す題材や教育内容は、社会が示す学習者の興味関心の持ちかた、身につけてほしい学力を反映している。したがって、これを具体的に示すことで、社会が学習者に身につけてほしいと期待する知識や価値、考え方の一端を明らかにすることができる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to a transition of Expository texts in Japanese textbooks used at elementary School after 1945, and to clarify changes of educational content. Since 1971, the most common subject matter is "animals and plants", especially "insects", and the second is the socio-cultural events that children experience in their "living". Grade trends correspond to the growing social concerns of children. The transformation of description and the educational content are as follows, (1) The structure of texts has been clearly revised to be typical of problem-solving texts. (2) Thereby, educational contents, such as paragraph summaries, texts interpretations, composition grasps, exchanges of ideas, that have been emphasized in each era can be set, and learning activities that match them can now be performed.

研究分野：国語科教育学

キーワード：説明的文章 国語教科書 小学校

1. 研究開始当初の背景

国語教科書における教材の選択や叙述内容、編修には、同時代で共有される規範意識や価値観、教育観、言語観が投影されている。国語教科書に採録された教材の具体的内容を検討することは、教科書を通して国語科が提示する教育内容の実態を解明するための方策として、重要な一面を担っている。また、教科書教材史研究は、先行する教材の何を継承し、何を書き換えたかを明らかにする中で、各時期の教材の特徴や、教材を通して提示される教育内容を明確化し、その教育内容を相対化する視座を与えるものともなる。

説明的文章は国語教材として重要なジャンルの一つであるが、教材史にかかわる考察は十分に蓄積されていない。その要因としては、説明的文章教材は複数の教科書での重複採録が少なく採録傾向を見いだしにくいこと、多様な教材を分類・整理したり、教材の内容を分析したりするための観点が明確でなかったことなどが挙げられる。一方で、近年はデータベースソフトなどを活用することで、教材の内容を複数の観点で整理したり、採録数を集計したりする作業が簡便化され、大量のデータを対象とした量的考察が可能になった。また、類型化した教材の複数の特徴に基づいて各時期の特徴を記述したり、教材叙述の比較を通して各時期のテキストの特徴を析出したりするなど、叙述内容に沿った質的な考察も報告されるようになった。こうした分析方法を援用することで、説明的文章教材史全体を対象とした史的考察を進めやすい状況が整ってきている。

2. 研究の目的

説明的文章教材史研究の目的は、説明的文章教材が提示する教育内容の変遷過程を明らかにすることである。そのために、具体的には次の課題を設定することができる。

- 説明的文章の教科書掲載史の全体像の把握
- 説明的文章教材の叙述内容と、その特徴の整理
- 教材の叙述内容や採録に働く社会的要因の検討

これらの課題に答えるため、本研究では、戦後期の小学校国語教科書について教材調査を行い、収集した教材の題材・特徴を整理し、戦後期における小学校説明的文章教材の変遷と特徴の総体的記述を行う。また、教材叙述の内容・文体、教材で指導される事項の異同を検討することで、説明的文章の採録にかかわる教育観などの社会的要因を明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

本研究は、次の3段階で実施した。

- (1) 教材調査に基づく説明的文章教材データベースの作成
- (2) 各時期における説明的文章教材で扱われた題材・内容の類型化と変遷記述
- (3) 採録教材の異同に関わる状況要因の検討

研究の第一段階として、基礎資料となる説明的文章教材データベースの作成を行った。教材本文の収集を行い、教材名、筆者、採録年度、出版社、学年の書誌情報の他、叙述内容に関する情報を加え、目録化した。教材調査に際しては、私蔵本の他、教科書センター附属教科書図書館などが所蔵する教科書にあたった。

次に、作成したデータベースに基づいて説明的文章教材の題材・内容の類型化を図り、時代ごとの特徴をまとめて総体的な教科書掲載史の記述を行った。自然科学的題材、文化、社会・時事問題、哲学的探求課題など、説明的文章で扱われる題材・内容は多岐にわたる。これらの題材を整理・類型化し、時期ごとの特徴と傾向を記述する。

また、長期にわたって継続採録されている特徴的な教材を抽出し、教材本文の異同、学習事項の特徴を検討し、採録要因の考察を行う。学習者の発達段階、学ばせたい文章構成や身につけさせたい読解力などに即した改変を対象として、長期採録される教材の特徴と、時期ごとの教育内容の特質を明らかにする。

4. 研究成果

本研究は、戦後期の小学校国語教科書に採録された説明的文章教材の採録史を総括的に記述し、説明的文章教材を通して学習者に提示された教育内容の変容過程を明らかにすることを目的としている。

研究の基礎資料として、戦後小学校教科書において、どの時期にどのような説明的文章教材が採録されたかを一覧化した教材目録に、それぞれの教材で扱われている題材・内容、筆者の意見、文章構成等の情報を加えた、説明的文章教材データベースを作成した。データベースの作成と並行して、教材名、筆者、採録学年、採録教科書、掲載年度、扱われている題材・テーマの分類と類型化を行い、採録数を集計して時期ごとの特徴を記述した。説明的文

章というジャンルが明確にされた昭和 46 年度から令和元年度までの約 50 年間に刊行された小学校国語教科書に採録された説明文教材は 813 編である。全般的に減少傾向であり、特に H8 版以降の減少幅が大きい。H17 版から微増に転じている。学年別では、三年生以上、特に六年生の教材が減少している。10 年以上継続された教材は 208 編であり、7 割以上の教材が 3 回の教科書改訂を待たずに差し替えられていた。説明的文章教材は全般的に採録期間が短い。短期の差し替え数は一・二年生で相対的に少なく、高学年、特に六年生が多い。採録年数が 30 年を超える教材は 14 編であるが、このうち低学年教材が 8 編、中学年教材が 5 編で、やはり学年が上がるにつれて教材の差し替えが多くなる傾向が認められる。題材では、「動植物」、特に「昆虫」を扱った理科的な題材が最も多く、これらは低学年で多く採られている。次いで採録が多いのは、衣食住や伝統行事など、児童が「くらし」の中で触れる様々な事象を題材にした社会文化的題材である。この種類の題材は、時代の影響を受けやすいこともあり、長期採録は理科的題材より少ない。また、昭和 60 年前後からは環境問題といった社会問題を扱った教材が増え、平成半ばから点字や手話など、障がいを持つ人とのコミュニケーション手段を扱った教材が採録されるようになってきている。学年別では、児童の身近にある乗り物を題材とする教材は一年生で、祭りなどの伝統文化を題材とする教材は三年生で、文化的事象や環境問題を題材とする教材は六年生で採録が多くなる傾向がある。

長期採録される教材は、科学的説明文に多い。そこで、40 年以上にわたって継続採録されている科学的説明文教材「ありの行列」を取り上げ、教材記述、学習の手引きの異同を検討することを通して、各時代における科学的説明文教材の指導内容がどう変容したかを検討した。「ありの行列」では、題材・表現面で採録当初から高い評価を得た一方で、叙述や文章構成の曖昧さに対する批判も見られた。それに対して、仮説を導くための前提条件の提示、語が表す概念の精緻化、段落の再構成など、叙述の曖昧さを解消する改稿が行われ、構成が明確な典型的な問題解決型文章と見なせるようになった。さらに、学習の重点事項については、採録当初の段落要約から、文章の解釈、構成把握、考えの交流などの活動に変化している。また、本テキストは、研究成果を報告する科学的説明文の特徴と科学者の探究プロセスを叙述する科学読み物の特徴の双方を備えており、読解に終始しない多彩な学習活動に対応することもできた。叙述の精選、指導事項の変容、学習活動の多様化に対応できる余地を持つことが本題材の長期採録の要因となっており、それらの活動は各時期に重視された教育内容にも対応している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 幾田 伸司	4. 巻 37
2. 論文標題 小学校国語教科書における科学的説明文教材の史的考察：「ありの行列」を例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要 = Research bulletin of Naruto University of Education	6. 最初と最後の頁 119～129
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24727/00029372	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 幾田伸司	4. 巻 36
2. 論文標題 戦後小学校国語教科書における説明的文章教材の変遷 昭和45年度から平成31年度を対象として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳴門教育大学研究紀要 教育科学編	6. 最初と最後の頁 34,43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24727/00028970	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 幾田伸司
2. 発表標題 小学校国語教科書における科学的説明文教材の史的考察
3. 学会等名 第72回中国四国教育学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------